

私がまちづくりスタッフです。

NO.18
一言会理事
外山 明さん
(向島五丁目)



江戸の頃、向島は四季折り折りの風情に富み、文人墨客がよく散策に訪れた。求めにに応じて出したお団子が名物、言問団子。外山さんはその老舗の副社長で、ゆくゆくは後を継いで六代目になられる。

情報公開制度懇談会の委員をはじめ、対外的なお仕事にも積極的に参加されている。区政への協力員(モニター)をなさ、た時、自転車の放置問題になり、「放置自転車条例」ができた。

学生時代の専門は翻訳。通訳もなさる。年に2、3回は海外に出かけられ、目ずとお話も国際的になる。

「歴史を感じる街が多いのはヨーロッパ。街並みが保存されている都市には、きち、とした条例がある。伝統を支えているのは、自分たち住民なのだという強いプライドが感じられますね。一寺言問も、地域にあった協定のようなのができるしかない。まちの統一はとれにくいですね。」

お店では笑顔絶やさない。会合にはいつもスーツをビシッと決めて、タンディズムの香り。近々墨田区の「うまいもの本」を出すとか。(高原純子)

いちごことい
一寺言問 / 防災まちづくり瓦版
第20号 平成2年3月1日発行
編集 / 一寺言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菜枝・木田佳男・木田文代
編集協力 / マヌ都市建築研究所
発行 / 一寺言問を防災のまちにする会・事務局
墨田区都市整備部開発促進課内
〒130 墨田区横綱1-6-1 tel.(626)3151



向島有季園情報

- 新規利用応募者殺到45
- 担当理事に隣の植竹さん

- ▶向島五丁目の防災小緑地・向島有季園の防災菜園平成2年度利用者の募集が1月31日締切られました。14区画に対して応募が45。約3.2倍の競争率。利用者は2月17日(土)、同園で公開抽選会によって決まります。
- ▶それから、向島有季園の隣に住む植竹モトさんが、新しく一言会理事(わいわい会所属)に加わり、向島有季園担当理事として利用者の相談、同園の運営・管理などに活躍していただくことになりました。
- ▶平成元年度の利用者からのお便りを紹介します。

●狭いながらも、ホッ!と救われる空間です。

一日中忙しく動きまわっている私にとって、有季園は狭いながらも「ホッ!」と救われる空間です。畑の手入れをしている時、通りかかるとりの人や、出前、基金の人達によく声をかけられ、ちよ、こり得意氣に作物の話などをするのも楽しみのひとつです。小さなコミュニケーションの場としても注目されていくのではないのでしょうか。

初回有季園の利用者申込人数の少なさに驚きましたが、後に開園式の写真が載ったりして、傍見知りの大勢の人達に羨ましがられ、瓦版を読まずに捨ててしまう人が多めに改めて驚いてしまいました。しかしその後有季園に関心を示す人が増えて、今では難の目算の目次回のチャンスを狙っているようです。

瓦版は紙質にまで気を配られ、内容も身近な事柄を取り上げているので読み易く、楽しみにしています。ますますのご活躍を期待します。

(東向島-丁目 橋本俊子さん)

●土が子供たちの身近なものになったのでは。

思いがけなく有季園を利用することかできて、本当にありがとうございました。保育園から近いくこともあり、近隣散歩で園児が楽しみながら、収穫まで見ることもでき、良かったです。いつもお給食で食べているミニトマト、ピーマン、ナスが本当はこんな園でできていて、パックに入っているのとはいいことも知らされました。子供との会話の中で、お母さんに今日トマト見に行、たんだよと子供なりに生気の楽しみもあり、他では経験できないことがこの有季園を利用してもらう。土が子供たちの身近なものになったのでは、と思います。

子供達も有季園に行き、にきやかさきで近所の方に迷惑をかけたことと思、反省しています。私たちの身近な墨田に利用できる畑があったことを感謝しています。約一年間利用させてもらい、とてもありがとうございました。(寺島保育園 浅野啓子先生)

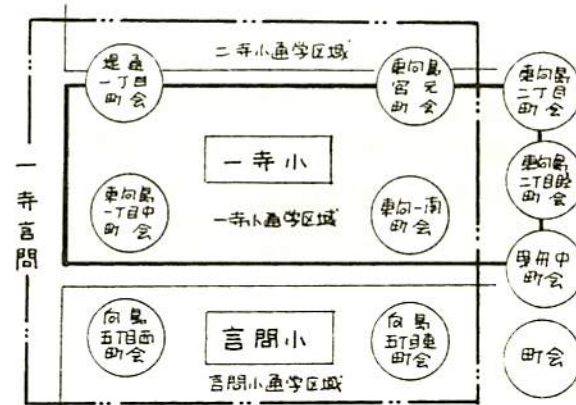
一寺小学校地域防災情報連絡会

東京を襲った関東大震災から66年。関東大震災級の地震はいつ来てもおかしくないといわれています。

先立って、若年の同僚のサンフランシスコで起きた震災は、皆様の記憶に新しいことでした。現代の都市機能が地震に対して脆弱にも弱く、災害時における情報伝達なども重要であることか、今回の地震も改めて報道されておりました。このことは、対策の火事としておしまいにしてしまうのではなく、正に私達の教訓としておぼろげにしておきたいです。

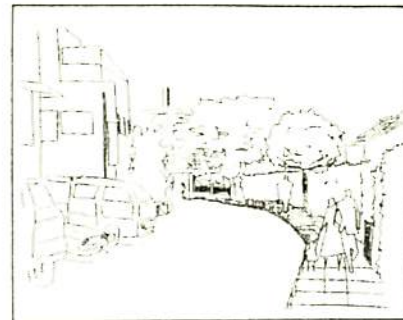
さて、私も各町会におきましても、従来の防災に対する対応を図るべきとおもいますが、墨田区では区内小学校を中心とした防災態勢づくりをすすめておきまして、これを機会に、町会と小学校とPTAと区、の担当者が集まり、防災に関する情報交換の会を開きたいと考えています。

～(仮称)一寺小学校地域防災情報連絡会、開催の呼びかけ～

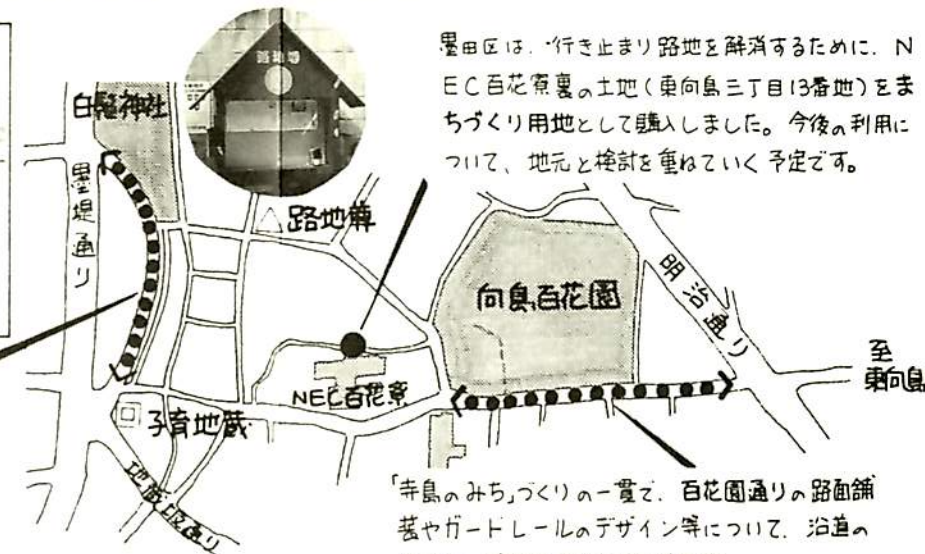


七福神めぐりに朗報! 整備進む百花園界隈

- 新生「旧墨堤之道」11月13日月末、完成!
- 百花園通り等の整備、地元と検討開始へ



足かけ3年検討を重ねてきた旧墨堤之道(子育て地蔵~白髭神社)の改良整備が11月13日月末に完成します。皆さん大変永らくお待たせしました。



墨田区は、行き止まり路地を解消するために、NEC百花園の土地(東向島三丁目13番地)をまちづくり用地として購入しました。今後の利用について、地元と検討を重ねていく予定です。

「寺島のみちづくり」の一環で、百花園通りの路面舗装やガードレールのデザイン等について、沿道の皆さんと検討をすすめていきます。

「墨田区では新しい防災情報システムを開発し、災害時に区内の情報更新システムを開発し、無線でも学校へ情報伝達する仕組みができる。災害時に六十回検閲使用できることが新たに認められたもの。全国初の試みである。今後の課題は、学校からどのようにして地域に伝えるか。」

「一寺小の消防計画では、生徒の第一次避難場所として一寺小、第二次避難場所として墨田区立第三中学校、第三次避難場所を白髭東防災団地としている。これは一寺小サイドの対応策として決めたものである。」

- ① 一寺小を中心とした情報伝達の方法などを検討していくにあたって、まずお互いに防災に関する情報交換をしていく。
- ② 一寺小の通学区域を持つ町会からそれぞれ選ばれた代表(各町会から四名以内)により構成する。一寺小校長や一寺小PTA会長、墨田区防災課にも参加してもらおう。
- ③ よそから講師を呼んだり、互いに意見交換する。年に何回か会合を開く。
- ④ 消防署や警察署、企業などの参加については、良し、と検討する。

